

テンパス



TEMPUS

2001年(平成13年) 11号



和泉葛城山ブナ林



東盆おどり



三夜音頭



和泉葛城山ブナ林

貝塚の盆踊り

文化財トピックス

埴輪がたくさん出てきた！

寄贈いただいた資料から

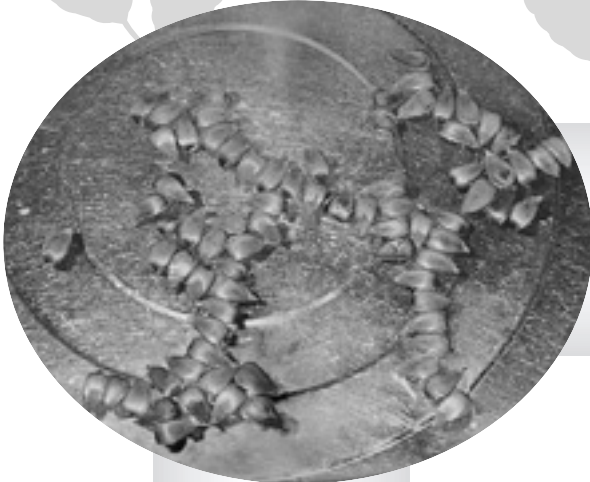
弥生時代の溝を発見！

要家文化財総合調査始まる

市内の古文書調査から

和泉葛城山ブナ林

ブナの保全に活躍されている方にその活動の一端を紹介していただきます



ブナの種



タネ採りハイク

和泉葛城山山頂にあるブナ林は、1922年（大正12年）に国指定天然記念物に指定され、当時は幹直径30cm以上のブナが約1800本あったとされています。しかし近年、ブナの大木が次々と枯れ、林内に後継樹がほとんど見られないなどブナ林の衰退が著しく、さらには地球温暖化も影響して、和泉葛城山のブナ林が絶滅する危険性が懸念されるようになりました。

そうした中、貝塚市・岸和田市・大阪府が一体となり、学識経験者等の指導を得ながら、ブナ林周辺の緩衝樹林帯において、ブナやシデ等の落葉広葉樹の植栽、ブナの種子採集と稚苗の養成、緩衝樹林帯および植樹造林地の森林育成、ブナの毎木調査、巡視管理等、ブナ林保全のためのさまざまな活動を実施しています。しかし、昨年は7年に一度のブナ種子の豊作年であったにもかかわらず、健全な種子がほとんど採集されなかったことなど、新たな問題も生じています。

《財）大阪みどりのトラスト協会 天満和久》



ブナの幼木



ブナの苗畑



苗畑で育ったブナの苗木の植栽



貝塚市葛城緑の少年団は、

「大自然の中で、緑を愛し、緑を育てる活動を通じて人や社会を愛する社会人を育てる。」ことを目的に昭和60年5月蕎原・葛城校区の子ども会（主に小学5・6年）・子ども会育成会で結団されました。今年度は、指導者19名、団員52名の71名で構成されています。

現在、全国には4千余の緑の少年団があり、各地で31万名の団員が学習、奉仕、レクリエーション活動を行っています。私たちもその一員として結団以来、ふるさとの山和泉葛城山の環境保全、とりわけ我団が主なテーマとしてきたブナ原生林の大切さ、偉大さ（人、小鳥、トンボやメダカなどへの恩恵）、ブナの生態を学習するとともに、ブナ林の観察会・清掃活動、苗木防獣ネットの撤去、防火用水、小鳥の巣箱の設置などの活動を行ってきました。

ところが、最近では台風による無残な倒木や老木化でブナの減少が進み、ブナ林の衰退が心配されています。今後の取り組みとしてブナとの関わりをさらに深め、成長を守るため、みどりのトラスト協会が進めているブナ植栽への参加を計画しております。

この他、ヒメユリの保護増殖、緑の募金、貝塚市の葛城山クリーンパトロール、緑化フェアなど緑化推進活動にも取り組んでいます。

《貝塚市葛城緑の少年団 団長 山本憲明》



緑化フェア



ブナ林の観察会



苗木防獣ネットの設置したブナ林



苗木防獣ネットの撤去

伝統文化の保存にむけて

貝塚の盆踊り

伝統文化を守る取り組みとして「盆踊り」に焦点を当ててみました。今回は「三夜音頭」、「東盆おどり」を紹介します。

三夜音頭

さんや音頭は、戦前まで泉州地域海岸部各地にあった盆踊りです。貝塚では旧貝塚町地域に残っています。貝塚のものは、天正年間（16世紀後半）顕如上人が貝塚に本願寺を移したことを祝い、民衆が三日三晩踊り明かしたことが起源とされています。貝塚で“さんや”に「三夜」の字をあてるのは、この起源に基づくものと考えられます。明治初期までは願泉寺境内で、その後南町の浜辺などで踊られていましたが、今は8月14日、15日に感田神社境内で行われています。

音頭は、4拍子の「さんや」と呼ばれる「一口音頭」を囃子でつなぎ、何回も続けていきます。音頭取りは主に女性で、歌詞は貝塚の名所を織り込んだものなどたくさんあります。囃子はやぐらの上で主に男性が行います。音頭の合間と音頭と音頭のつなぎに比較的長くいれます。踊りは輪踊りで、願泉寺境内や南町で踊られていたころは、やぐらから離れた場所で踊りましたが、感田神社ではやぐらを取り囲む形になりました。太鼓の打ち手は男性で、「ブチ」というレンガ状の木を使います。音頭に合わせて太鼓の周りを踊りながら打ちます。さんや独特の太鼓の打ち方を「ちょんがけ」といい、打ち方が難しく、体力も必要で、後継者育成が難しくなっています。

現在は午後7時から9時頃まで子供盆踊り、その後11時ころまで三夜音頭が踊られます。今年は、貝塚市東盆おどり保存会との交流が行われました。

貝塚三夜音頭継承連絡会

昭和50年に結成された三夜音頭保存会が、平成6年に解散しています。そのことを残念に思った北婦人会の会員を中心にして、平成8年にこの会は結成されました。現在は、櫛田幸子会長を中心として市立北小学校校区で婦人会、PTA有志、旧保存会会員、民謡連盟など約100名の方々によって構成されています。踊りの当日はもちろんですが、北小学校の生涯学習施設「ふれあいルーム」での子ども達への継承を中心に活動されています。



おどり風景

貝塚市内の盆踊り

盆踊りは、全国的に行われる先祖供養を目的としながら娯楽の一環として各集落で開催されてきた伝統的盆行事です。古くは、室町時代の後半から行われ、大阪の河内や泉州は、特に盆踊りの盛んな地域だと言われています。

貝塚市内で盆踊りがいつから行われているかは定かではありませんが、明治から大正・昭和初期にかけて盛んに踊られていました。もともと、海岸部では「さんや音頭」が、内陸部では「横山くどき」が踊られていたようです。戦後、「さんや音頭」は踊りの難しさやテンポの遅さから敬遠され、昭和30年代中頃から中断されたり「江州音頭」等にかえられたりしています。その後、「さんや音頭」は寺内町地域で復活し現在に至っています。「横山くどき」は葛城地域などで戦後も踊り続けられていますが、テンポが早まったり、踊りの形が「江州音頭」と同様になったりと、本来の形からは変化しています。また、昭和50年代頃に盆踊り再興ブームが起こり、あちこちで「江州音頭」による盆踊りが盛んになりました。

現在の貝塚市内では、東地区の大阪府指定無形民俗文化財「東盆おどり」や寺内町地域の貝塚市指定無形民俗文化財「三夜音頭」、蕎原や水間地区などの「横山くどき」、泉佐野市隣接地域の「佐野くどき」を除くと、おおむね「江州音頭」やその一派である「泉州音頭」が踊られているようです。

東盆おどり

東盆おどりは、17世紀後半に円光寺において始められた報恩講が起源とされています。ゆったりとした三拍子の音頭で、哀調をおびた独特の節まわしをとります。「くどき」と呼ばれる音頭が中心ですが、「ヨホホイ」と呼ばれる独特のものも残っています。伴奏には太鼓や鉦（かね）を用いず、三味線や尺八・横笛のほか、胡弓や大正琴も用いられています。踊りは手ぶりのしぐさから、「念仏おどり」の一種とも言われています。踊り手はゆかた姿のほか、いろいろな仮装をして踊ります。

現在は、8月14日から16日にかけて円光寺境内で踊られます。午後8時から12時近くまで踊られ、昔は最終日の夜は、夜通し踊り明かしたそうです。今年は、16日に貝塚三夜音頭継承連絡会の方々も踊りに参加し、交流を深めました。

貝塚市東盆おどり保存会

この会は、東盆踊りの由来を深く認識し、その普及・啓発につとめ、長くこの行事を継承していくために、昭和45年、地元有志によって結成されました。現在は、170名の方々によって、構成されています。踊り当日の準備、運営はもちろんのこと、音頭や楽器の練習、子供たちへの指導、研究活動、イベント参加など、1年を通じて様々な活動を行っています。



おどり風景



虚無僧に仮装して

三夜音頭・東盆おどり合同で

視察・交流会を行いました！！

今年6月10日、両会主催で視察・交流会を行いました。行き先は奈良市東部の田原で、奈良県・奈良市指定無形民俗文化財「祭文踊り」です。今回は、他地域での民俗文化財保存継承のとりくみについて意見交換し、両会の活動に生かそうということ、民俗文化財を継承する人々の交流が目的です。

朝9時、両会世話役を中心とした40名が、バスで出発し奈良市に到着、昼食を兼ねた交流会を行いました。会員等の自己紹介ほか、宴が進むにつれて、今年の踊りの時は両会、見学・参加するなどの約束が飛び出しました。午後、当初の予定よりも早く到着したにもかかわらず、田原地区伝統芸能保存会会長貴定毅巳氏はじめ保存会の方々が準備万端で大歓迎を受けました。挨拶、行事の説明の後、早速実演が始まり、興味深く拝見し、また、予定になかった、東盆踊り、三夜音頭の実演も行いました。その後、意見交換会になり、後継者育成の問題とその活動、盆踊り当日が思うように盛り上がらないなど、3会とも同じ様な問題を抱えていることなどを話し合いました。

田原地区伝統芸能保存会（昭和57年設立）

奈良市田原地区（旧奈良県田原村）にある3つの指定無形民俗文化財、「おかげ踊り」、「祭文語り」、「祭文踊り」を継承する団体です。



祭文踊り発表風景

文化財トピックス

最近の文化財ニュースをお届けします!!

埴輪がたくさん出てきた！～国指定史跡丸山古墳の発掘調査～

みなさん、貝塚市地蔵堂に前方後円墳があるのをご存知でしょうか。丸山古墳といいます。

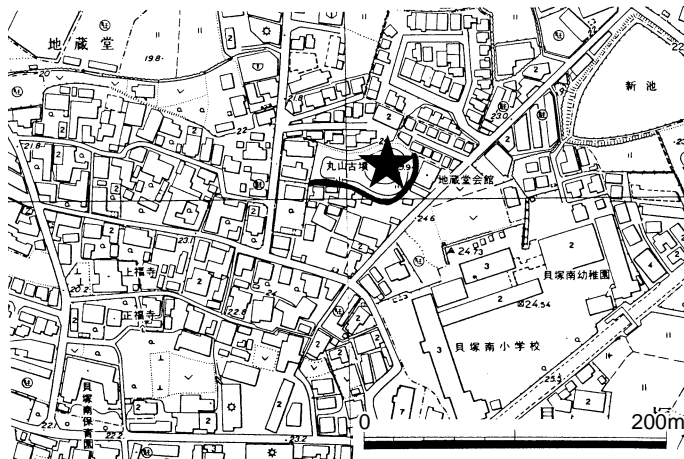
前方後円墳は上から見た形が と を付けたような形をしています。3世紀～7世紀（今から1400～1800年前）に造られ、各地域を治めた有力者の墓と考えられています。

古墳は全体の長さが72m、前方部の最大幅約27m、後円部の径約43m、前方部の高さ約4m、後円部の高さ約5mで、昭和31年に国の史跡指定を受けています。

今年8月から古墳裾周囲の水路改修に伴ない、発掘調査を行いました。調査では土留めの石垣を組むために盛った土や、江戸時代以降の盛土を確認しました。本来の古墳の形は後世に壊され、当時の古墳面はもう少し内側にあると思われます。

盛土から古墳に置かれていた埴輪がたくさん出ました。筒形をした円筒埴輪のほかに、甲冑もしくは家を表した埴輪も出ています。

丸山古墳は古墳の形から4世紀（1700年前頃）に造られたと考えられています。しかし、埴輪には少し新しい時代のものも含まれているため、検討が必要となっています。



調査風景

寄贈いただいた資料から

これまで多くの市民の方から寄贈いただいたむかしの道具類を所蔵しています。今回は最近の寄贈資料のなかから、薬売りが得意先に預けていた“薬箱”（写真）を紹介します。薬屋の少なかったころは、行商人が巡回していろいろな薬を預けおき、次に来たときに使用済みの薬代を徴収するという「置き薬」が一般的でした。なかでも富山の薬売りは元禄年間（1688～1704）から伝えられるほど全国的に有名です。写真の資料を含め、富山のものが2点、奈良県吉野のものが1点あります。今回は1点のみの紹介ですが、今後も図書館の郷土資料展示室やテンプスでいろいろな道具を紹介していきたいと考えています。



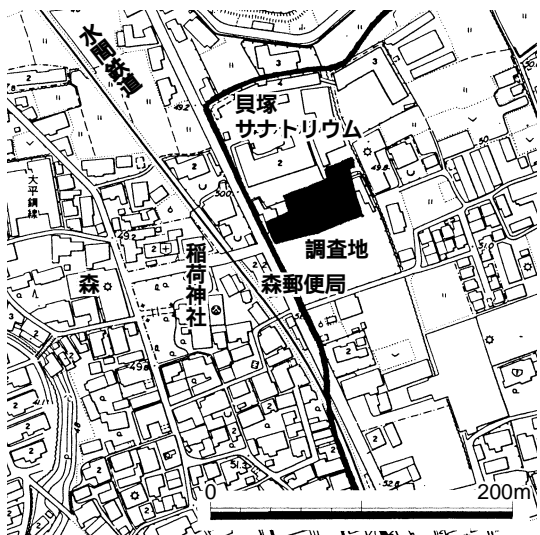
薬箱（富山）

弥生時代の溝を発見！ 森下代（もりしもだい）遺跡の発掘調査

本年6月～8月まで、森474-2他地内で病院建設工事に伴う約2000㎡の発掘調査を実施しました。森下代遺跡は中世の集落跡と考えていましたが、今回の調査で中世以前の遺構、遺物を発見しました。

遺構は弥生時代中期の溝1条、平安時代後期から中世のころの鋤溝を多数検出しています。遺物は、多数の中世の瓦器碗のほか、奈良時代、平安時代の土器も出土しており、中には市内でも出土例の少ない緑釉陶器（平安時代）が2点出土しています。また、縄文時代後期の土器と石器、弥生土器と石器もあり、近隣に縄文人が生活していたことが明らかになりました。

8月27日、28日には病院関係者と地元の方々（2日間で約180人）に見ていただきました。



弥生時代の溝

要家文化財総合調査 始まる

畠中所在の旧七人庄屋、要家に残る各種文化財を調査し、その保存活用を考える目的で、本年度より5ヵ年計画で「要家文化財総合調査」を開始しています。5月に専門研究者による「要家文化財総合調査委員会」（委員長は藤本清二郎和歌山大学教授）が組織され、古文書、考古、建築、美術工芸、植生などそれぞれの分野で詳細調査がすすめられることになっています。

今年度は、古文書、考古（庭園）、植生の分野で調査が実施されます。古文書は、近世庄屋文書を主体として数万点に及びます。また、江戸時代以来の構えが残る屋敷地は約2,000坪、池を中心に庭園や雑木林はかなりの規模で広がっており、調査作業は容易ではありません。調査成果について逐次お知らせする予定です。



現地調査風景



古文書調査

市内の古文書調査から

郷土資料室では、開室以来市内の古文書調査を継続して行なっています。ここでは、最近の調査の一部について紹介します。

①大川・秬谷宮座共有文書

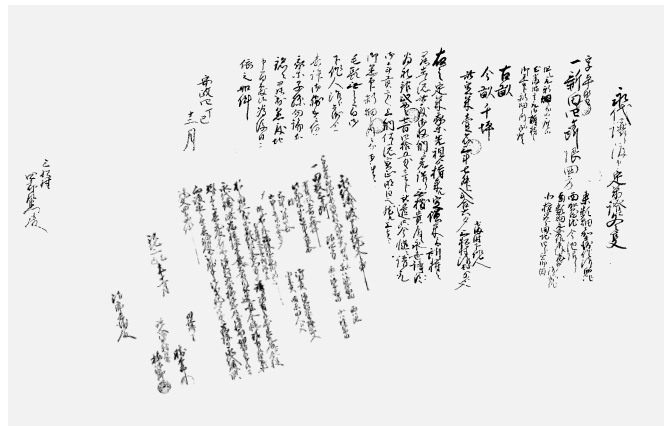
大川と秬谷の両地区には大川の菅原神社を氏神として祀る合同の宮座があります。今日でも続く市内でも数少ない宮座の一つです。

宮座の運営にかかわる神主が交代で、少なくとも150年以上ものあいだ管理してきた帳箱のなかに174点の古文書類がありました。そのなかには、江戸時代の終わり頃の嘉永3（1850）年から、昭和20（1945）年までの約100年間にわたって、宮座の運営状況を伝える算用帳のほか、菅原神社の屋根のふきかえや玉垣の修理に関する記録など、江戸時代から続く宮座のようすを解き明かす史料が数多くのこされています。



②北田家文書

三ッ松にあり、江戸時代は「北右衛門」・「吉左衛門」の屋号を名乗る旧家にのこる古文書類59点を調査しました。古文書から北田家は永寿池周辺にあった近木領小垣内分や地藏堂村正福寺新田の肝煎（年貢徴収など、村より小さな単位で村役人と同様の仕事を担当）をつとめていることがわかりました。また、永寿池の水争いの記録や土地売券、年貢帳等の近世から近代にかけての史料がのこされています。



編集後記

今回はさまざまな文化財を守り、伝える取組みから、和泉葛城山ブナ林（天然記念物）貝塚の盆踊り（無形民俗文化財）をとりあげました。保存・継承に尽力される方々に敬意を表します。これからも折をみてさまざまな活動を紹介していく予定です。

また、文化財トピックスでは、文化財関係のニュースや資料などをお知らせします。文化財に対する疑問やもっとくわしく知りたいといったことに答えていきたいと考えています。

* * *

かいづか文化財だよりテンプス11号



平成13年10月31日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
☎（0724）23 2151
印刷（株）中島弘文堂印刷所

テンプスとはラテン語で「時」を意味します